

平成27年 7月 青葉区議員団会議 会議録	
開催日時	平成27年 7月24日 (金) 午後 4 時～ 5 時15分
場 所	青葉区役所402～403会議室
出席者	<p>【議 長】 内田みほこ議員</p> <p>【議員：7名】 青木マキ議員、赤野たかし議員、行田朝仁議員、中山まゆみ議員、藤崎浩太郎議員、山下正人議員、横山正人議員</p> <p>【説明局員：39名】</p> <p>(青葉区)</p> <p>小池恭一区長、大野敏美副区長、勝島聡一郎福祉保健センター長、小嶋哲夫福祉保健センター担当部長、槇重善青葉土木事務所長</p> <p>(建築局)</p> <p>大塚建築局住宅地再生担当部長、大友住宅再生課長</p> <p>(教育委員会事務局)</p> <p>高倉施設部長、中澤教育施設課長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
次 第	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 次世代郊外まちづくりについて</p> <p style="text-align: center;">(資料1・建築局 住宅再生課、区政推進課、高齢・障害支援課)</p> <p>(2) 山内小学校用地の一体化に向けた工事について</p> <p style="text-align: center;">(資料2・教育委員会事務局 教育施設課)</p> <p>2 その他</p> <p>(1) 生活困窮者自立支援制度の相談及び支援申込状況等について</p> <p style="text-align: center;">(資料3・生活支援課)</p> <p>(2) みらいづくり大学 青葉キャンパス「あおば魅力発見講座」の開催について</p> <p style="text-align: center;">(資料4・区政推進課)</p>
報告事項 (1) 次世代郊外まちづくりについて	
発言の要旨	<p>行田議員 美しが丘二丁目、三丁目あたりで空き巣等が増えていると聞いている。</p> <p>この地域では、ホームセキュリティーを入れている家は結構多いが、外に向けて防犯カメラをつけている家はほとんどない。警察は、外向きにカメラをつけている家をお願いして画像を見せてもらい、逮捕に向けて動いているという。</p> <p>今後この地域を良くしていくには、民間の皆さんと力を合わせていく必要がある。</p> <p>例えば青葉台商店街などは、国のお金を使って防犯カメラを増やしている。このように、他の力も使いながら、安全対策の厚みを増すことはできないか。</p>

	<p>大友建築局住宅再生課長 まちづくりにおける防犯・安全という視点では、建物に防犯カメラを設置してカメラを町と建物内の両方に向ける、そうした町の安全に寄与するような建物をちゃんと評価できないかという検討を進めている。</p> <p>もう一つ、町の見守りという視点では、地域の方々と「フラワーポットプロジェクト」というものをさせていただいた。通学路に花を植えるポットを設置し、地域の方々には昼間に2回、こどもの登下校の時間にポットに水をやってくださいとお願いした。</p> <p>こどもが行き来する時間に地域の方が通学路に出ている。それによってこども達の通学の安全を確保しようという取組。</p> <p>ただ、街の安全性の確保という視点ではさらに議論が必要と考えている。</p> <p>行田議員 使える手段はどんどん使っていただき、街の安全対策についての象徴的な場所にしていただきたい。</p> <p>もう一点、美しが丘の健康づくり歩行者ネットワークの整備検討について。</p> <p>品川区では、区民から寄附を募って「お休み石」という椅子を設置している。</p> <p>青葉区内では、例えばバス停に椅子はないし、町中に椅子などを置いたら路上障害物ではないか等、地域の合意形成に向けて色々な話があった。また、設置する場合も、優先順位をどうつけていくのかという問題がある。</p> <p>山坂のある青葉区では、こういう設備はこれから大事なものになると思うが、想定されていることがあれば、お聞きしたい。</p> <p>郷間区政推進課担当課長 歩行者用の椅子や案内サインについては、そもそも、歩いて暮らせる範囲に必要な機能がコンパクトに集積しているまちを目標とする「コミュニティ・リビング」という考え方が根底にある。</p> <p>ただ、山坂の多い青葉区で歩いて暮らしていくためには、街中にベンチでちょっと休めるようなところがあったほうがよいという考えのもと検討を進めている。</p> <p>これは美しが丘だけでなく青葉区全体に展開していきたいと考えているが、歩道等が意外と狭いところがあり、ベンチを置くことによって歩行上支障が出るというような課題もある。また、ベンチの設置は道路法との関係もあり、今後、道路局とも調整していきたいと考えている。</p>
--	---

その他（１）生活困窮者自立支援制度の相談及び支援申込状況等について	
発言の 要旨	<p>山下議員 75人の相談実数があって、そのうち制度の利用を申し込まれた方が今日の時点で18人ということだが、残りの57人の方についても支援が必要だと考えているか。</p> <p>富田生活支援課長 相談に来られる方は、まず制度の内容について教えてほしいとって来られる。 制度の内容をご説明すると、「そういった内容であれば結構です」と言う方もいらっしゃるが、「利用についてよく検討した上でまた来ます」とお帰りになる方もいらっしゃる。 このように、相談件数の中には、制度の内容をご説明したところまで、という方がかなりの数いる。 相談件数の内訳としては、生活困窮者の自立支援制度のご説明が最も多く、その他には住居の相談と就労の相談等となっている。</p> <p>山下議員 制度の利用を申し込まれた18人の方々が抱える課題は、単に住居だけの問題や住民票だけの問題など単純に解決できる問題ばかりではなく、複合的な要因が絡んでいるのではないかと。 この制度の運用にあたって、高齢・障害支援課と連携しているのか。特に障害との関係で、今後どのような連携を取っていくのか。</p> <p>富田生活支援課長 自立支援制度のご相談の中で、障害のことや、他制度の利用についてお話があった場合には、もちろんその所管の窓口につなぐという形で連携を取っている。 実際に、6月末までに制度利用の申し込みをされた10人の方のご相談の内訳を見ると、最も多いのが就労に関するご相談。 自立支援制度を利用される方は、区役所の中にある「ジョブスポット」というハローワークの出先窓口をご利用いただける。 青葉区から新横浜や川崎、町田などのハローワークまで行くのは非常に大変だということで、青葉区役所の中にあるジョブスポットで求職の情報が検索できたりするのは大変便利だという声を頂いている。 就労相談以外では、債務の整理や収支バランスの検討等がある。 また、自立支援制度以外の制度を利用したいという方も、お一人いらっしゃった。</p> <p>山下議員 この制度は自立支援だから、当然、就労のご相談がベースになるのはわかるが、そうすると、相談に来られた10人の方というのは、ハローワークに行く代わりに区役所に来られたという認識でよいか。</p>

	<p>生活保護受給者の自立支援については、特に若年層では背景にアルコール依存やギャンブル依存等があり、給料をもらった途端に会社をやめてしまったりするという場合がある。</p> <p>そういう問題があると、会社側としてもきちんと雇えないということもある。</p> <p>そういった問題は、精神の障害に近い場合もあり、単なる就労支援だけでは自立は難しいのではないかと。</p> <p>今回制度の利用を申し込まれた10人の方は、単にハローワークの利用で問題が解決するような方ばかりという認識でよいか。</p>
富田生活支援課長	<p>それぞれの世帯によって抱えている問題は全部違う。ただ、制度ご利用の相談の内容で最も多かったのは就労だった。</p> <p>もちろんその背景は本当に様々で、むしろアルコール依存など病気の問題など、複合的な問題があって働けないといった方には、生活保護制度の利用をお勧めするということもある。</p>
山下議員	<p>窓口にいらっしゃる30～40代の若い方で、背景に明らかに何らかの障害があるなどということは、相談1回目で分かるものなのか。</p> <p>例えばアルコール依存の方は、ふだんお酒を飲まなければ全然わからない。そうした背景は、相談の中で色々なお話を聞いていくうちに分かってくるというものではないのか。</p>
富田生活支援課長	<p>それはケース・バイ・ケースで、すぐわかる場合もあるが、初対面の面接担当に今までのことを全部、その場ですぐに話せるという方ばかりでもない。</p> <p>そこは信頼関係もあるし、何回か来ていただいてお話を伺う中で、実は背景にそういった問題があるということが分かってくる。</p> <p>したがって、むしろ生活保護の制度の中で、自立を目指したほうがいいのではないかとのお話をする場合もある。</p> <p>これは本当にケース・バイ・ケースとしか申し上げられない。</p>
横山議員	<p>ジョブスポットの認知について。区民にどれくらい知られていると思うか。</p>
富田生活支援課長	<p>ジョブスポットは基本的に、生活保護受給者が利用できるということになっており、生活保護のご相談に来られた方の中で、就労に向けた支援を受けたいという方をジョブスポットにご案内している。</p> <p>区役所にジョブスポットがあるということについて、特に情報を閉ざ</p>

	<p>しているわけではないが、窓口にいちゃった方にはきちんとご案内している。</p> <p>横山議員 しかし、今回の相談事例の中では就労支援を希望された方が多かったという説明があった。これはジョブスポットの仕事ではないか。</p> <p> 生活保護は、本来は最後のセーフティネットにならなければいけないが、現状は最初のセーフティネットになってしまっている。</p> <p> 生活保護という制度もあるけれども、自立に向けてこういうことをやっていきましょう、ということをしているのだから、区役所が就労支援をしていくことがどれほどの認知されているのかというのも、大切なことではないか。</p> <p>富田生活支援課長 就労支援を区役所の窓口でも行っているということについては、生活困窮者の自立支援制度を広報する中で、これまでも周知させていただいている。もしなかなかお分かりいただけない部分があるとなれば、今後も周知に努めていきたい。</p> <p>横山議員 今までどれくらいの相談があったのか。就労支援の相談で区役所に来る人は、1日平均でもよいし月平均でもよいが、どれくらいいるのか。</p> <p>富田生活支援課長 就労支援ということではなく、生活にお困りになって私どものところに相談に来られる方は、大体、月に120人から140人くらいである。</p> <p> もちろん月によって変動はあり、このところ少し経済的な状況がよくなってたきのか少し減ってはきているが、大体そのような数で推移している。</p> <p> 相談に来られる方の中には、「こういう制度ができたと聞いて生活困窮の相談に来た」という方や、「生活保護は特に要りません」という方もいらっしゃるが、もう漠然と「生活に困っているので相談に来ました」という方もいらっしゃる。</p> <p>横山議員 制度が始まったばかりなので、余りネガティブなことは言いたくないが、生活保護に頼られてしまうと、市としても財政的に非常に厳しいから、その前段階で何とかしたいということでこういう取組をしているのだと思う。</p> <p> しかし、いま説明を聞いて、これがうまく機能するという実感が持てない。</p> <p> まだ制度が始まったばかりで実例が少なく、漠然とした説明になってしまったのかもしれないが、できれば事あるごとに、こういう事例があ</p>
--	--

	<p>って、こういうことで未然に防ぎましたという説明を、今後ぜひ聞かせていただきたい。</p> <p>支援の中でも、家計相談は、生活保護を受けてらっしゃる方にとって非常に大切なことだと思う。</p> <p>生活保護を受けているけれども保護費だけでは足りないと言う方に「では、どういう使い方をしていたのですか」と深く聞くと、やはり使い過ぎている。</p> <p>いろいろなことに使ってしまうから、結局1カ月持たずに終わってしまう、足りないということになっている。</p> <p>私は以前から、生活保護受給者にはまず家計簿をつけてもらいましょうと言っている。税金で賄われているものをこういうふうに使いましたと、領収証の裏づけも含めて家計簿をつけるのは当たり前のことだと思うが、現状ではそれすら求めている。</p> <p>これまで制度自体が求めていなかったのだから、青葉区役所だけ求めるといっても無理だが、やはりこういうところから家計をどう営んでいくのかという指導をすることも大切なことだと思うが、どうか。</p> <p>富田生活支援課長 今年、生活保護法の改正があり、家計に問題がある方については、家計簿の提出を求めることができるという新たな規定が設けられた。</p> <p>生活保護費というのは、基本的に保護を受けている方が自由に使えるようになっている。</p> <p>支給された保護費の範囲できちんとやりくりをしていただければ、家計簿の提出を求める必要はないわけだが、中には確かに家計上のやりくりができない方がいらっしゃる。</p> <p>そういう場合は、必要に応じて家計簿の提出を求めることができるという規定がやっとできたので、担当から指導をさせていただくことも今後できるのではないかと考えている。</p> <p>横山議員 過度な飲酒やギャンブルなど、本来適切ではない使い方をしているケースも多々あると思う。そういうものを未然に防ぐこともやはり窓口やケースワーカーの責任だと思うので、ぜひ努力をお願いしたい。</p> <p>赤野議員 近隣の町田市等と比べて、横浜市は生活保護申請者の生活状況等の調査が甘いのではないかという話を聞いたことがある。</p> <p>それは、体制の問題であったり実態調査の手法の問題であったり、職員が制度にどこまで精通しているかといった点で、市町村間に若干の差があって出てきている話ではないかと、私なりに問題意識を持っている。</p>
--	---

	<p>青葉区の生活保護を担当する中で、他の市町と比べた横浜市の特徴等、気付くことはあるか。</p> <p>富田生活支援課長 横浜市の特徴として、社会福祉職という専門職を登用してこの仕事に当たっていることが挙げられる。長年この仕事をしている者もたくさんいる。私も社会福祉職で、30年以上ずっとこの仕事をしている。</p> <p>そういった意味で、精度に精通した職員が非常に多いということはあると思う。社会福祉職の横浜市職員として、非常に丁寧に仕事をやっているという自負はある。</p> <p>他都市に比べて甘いところがあるのではないかというご指摘を受けることは確かにあるが、それは、丁寧に、そこまでやるのかというところまでやっていることが、そのように見えてしまっているのかなと感じる。</p> <p>赤野議員 もちろん大事なセーフティネットだから、不正受給は防がなければいけないし、正しい申請を受けたときには支払わなければいけない。ぜひ、制度の適正な運用に努めていただきたい。</p>
<p>その他（2）みらいづくり大学 青葉キャンパス「あおば魅力発見講座」の開催について</p>	
<p>発言の 要 旨</p>	<p>(特になし)</p>